

「人の役に立つ」の最前線で

四條畷消防署田原分署 救急隊
消防司令補 金城 光志（平成19年入職）

「つらい出来事を乗り越えて」

あんなに泣いたのは、あの日が最後かもしれません。

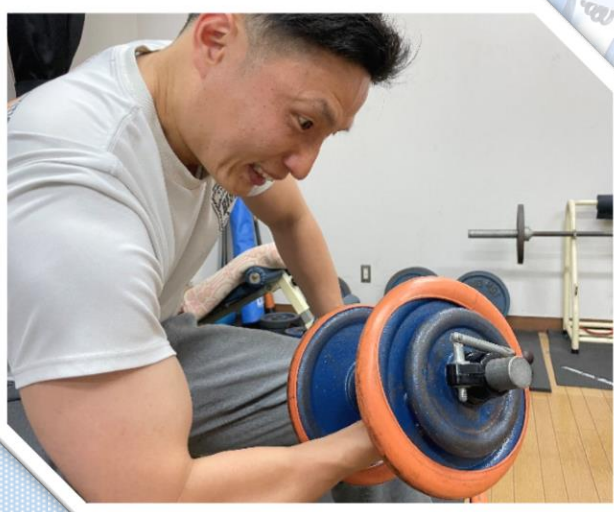
幼稚園から特別に親しくしていた友人が、20歳の時に火災で亡くなりました。可燃物を取り扱う工場で爆発を伴う大きな火災があり、彼はそこで勤めており、そして命を落としました。彼の家族や友人、多くの人が悲しみに包まれました。人の死とは、その人の無念はもちろんのこと、周りの人々をもこれほど悲しませるものなのかと、心に強く刻まれました。火災や交通事故や自然災害など、危険な場面から人を助け出したい、命を落とす人や悲しむ人を増やしたくない。その気持ちは日に日に強くなり、それができる仕事が消防であると確信しました。

地元での採用を希望される方も多いですが、私は消防の仕事に就けるなら日本のどこでも構いませんでした。いくつかの消防本部を受験し、当時の四條畷市消防本部での採用に至りました。



「自分の努力で人が助かるということ」

これまで、消防隊、救助隊、救急隊などの業務に従事し、緊急消防援助隊にも2度派遣されました。一言で「消防」と言っても、多種多様な分野で成り立っています。しかしどの分野にも共通しているのは「努力し成長することで人の役に立てる、それが人の命を救うことになる」ということです。訓練を重ねる、管轄の地理に詳しくなる、体力をつける、知識を増やす、チームワークを高める…、それら一つ一つが人の命を救い出すことに繋がっています。自分が頑張れば、その可能性はさらに高まります。そんな職業、消防以外になかなかないのではないのでしょうか。



「 人の役に立てるというやりがい 」

現在、私は救急隊に配属されています。毎日のように救急要請がある中で、先日、命の危機に瀕した方を救急搬送することがありました。できる限りの処置を行い、病院に急いで搬送しました。病院に到着してもその方の意識は戻らないままで、医師に引き継ぎました。しかし搬送した数日後、その方が夫婦でウォーキングされているのを目にしました。「助かったんだ！」といううれしい気持ちと人の役に立てたという喜びが、胸の奥から込み上げてきたのを昨日のことのよう覚えています

いつもそんな場面に出会えるわけではありませんが、毎日やりがいを感じて業務しています。「人の役に立つ」の最前線にある消防の業務を共に頑張りましょう！！

